

地域とつながる 福祉教育

申し込みの手引き



福祉教育は

他者理解（やさしい心）や
つながりづくり（集団づくり）
につながります

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会

吹田市社会福祉協議会が取り組む福祉教育について

吹田市社会福祉協議会(以下「吹田市社協」)は、吹田で暮らすすべての人が安心して暮らせるまちをめざし、地域住民やボランティア、福祉施設などのさまざまな機関や団体と共に、福祉のまちづくりをすすめています。

わたしたちが実施する福祉教育は、

- ①人や地域、福祉への興味関心を高める
- ②人を思いやり、他者も自分も大切にできる心を育む（自己肯定感を高める）
- ③子どもたちが自分自身にできることを考え、行動につなげる

をめざし、そのために何ができるかを一緒に考えさせていただきます。体験や講話、グループワークなどの授業を通じて、ふくし（ふだんの 暮らしの しあわせ）について考えるきっかけづくりをすすめています。まずは一度ご相談ください！



生きる力



1 知る・気づく

体験や講話を通して、障がいのある方や高齢者の暮らしや思いについて知り、理解を深めます。福祉についての理解を深めます。

主体的・対話
的な学び



4.取り組む

自分にできることをふだんの生活の中で見つけて、実際の取り組みにつなげていきます。また、学んだことを家族や友達に伝えていくことで福祉の輪が広がるきっかけをつくります。



2.ふれあう

同じ地域で暮らすボランティアや当事者の方々と交流し、つながるきっかけをつくります。地域で顔見知りの関係になるきっかけになります。

探究的な
学習



3.考える(話し合う)

授業での学びを通じて、一人ひとりができることを考えます。小さな力が合わされば「誰もが安心して暮らせる住みよいまち」の実現につながることを理解します。



主な実施内容

すいこれ(すいたのこれからを考えよう!)~in 小中学校

- ・自分たちの地域の現状や課題について考え、自分ができることやこれからの地域づくりについて考えます。(グループワーク)
- ・体験や講話後のまとめ学習で取り組むこともあります。

進行:社協 CSW 協力:地区福祉委員会やボランティアグループなど



車いす体験

- ・生徒は2人ペアになり、乗る側、押す側両方を体験します。
- ・主に体育館や、玄関ホールなど、広いスペースを使用します。

協力:地区福祉委員会やボランティアグループなど



高齢者疑似体験

- ・高齢者の身体特性などを学ぶため、疑似体験セットを装着し、さまざまな体験をします。
- ・主に体育館や多目的室など広いスペースを使用します。

協力:地区福祉委員会やボランティアグループ

手話コミュニケーション体験

- ・手話や身振り手振りでのコミュニケーションを体験します。じゃんけんなどの遊びをとおして手話を学びます。
- ・各教室や多目的室などで1~2クラスずつ実施します。

協力:聴覚障がい者当事者会、手話通訳ボランティアなど

アイマスク体験

- ・生徒は2人ペアになり、アイマスクをつける側、手引きする側両方の体験をします。
- ・主に、多目的室など広めの部屋で説明したのち、校舎や階段を使って体験します。

協力:地区福祉委員会やボランティアグループなど

点字体験

- ・点字の歴史や成り立ちを学び、実際に点字を打つ体験をします。
- ・中学校ではユニバーサルデザインについても学びます。
- ・各教室で実施します。1時間に1~2クラスずつ実施します。

協力:点訳ボランティアグループ



当事者の講話

- ・身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいなどの当事者による講話です。
- ・内容によって、体育館などの広い部屋で学年全体で実施する他、多目的室などで1~2クラスずつ実施します。

協力:施設利用者・職員、当事者団体、ボランティアグループ、個人ボランティアなど

令和6年度 主な福祉教育の実践事例

① テーマに沿った体験と講話の組み合わせ

学校「教科書で点字の学習をするので、視覚障がい者の気持ちや生活についても考え、思いやりの気持ちを育てたい」

→【点字体験・アイマスク体験・視覚障がい者の講話】

対象：小学3年生 約60名

内容：「点字体験」：点訳ボランティア

「アイマスク体験」：地区福祉委員会

「視覚障がい者の講話」：視覚障がい者（点訳ボランティアグループに所属）

【相談から実施までの経緯】

「授業で点字について学習するので、福祉教育で点字体験をお願いしたい。」との依頼。点字体験実施後、学校より、「児童の関心が高かったことから、より深い学びとして視覚障がい者のお話も聞きたい。」との再依頼があり、アイマスク体験と当事者の講話も実施することとなった。視覚障がいをテーマに複数の体験や講話を実施したことで、多くの気づきにつながり学びが深まった。

② スタンブラリーで地域とつながる福祉教育

学校「誰もが過ごしやすい社会について考え、自分たちにできることを進んで行おうとする意欲を育てたい」

→【認知症に関するクイズとスタンブラリー】

対象：小学4年生 約90名、PTAなどの保護者10名

内容：「車いす体験・アイマスク体験」：地区福祉委員会

「認知症について」：地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、

地区公民館、地区福祉委員会、大学生ボランティア、社協 CSW

【相談から実施までの経緯】

はじめは、車いす体験・アイマスク体験を通して福祉の心を育てる内容だったが、社協より、地域で行った「※みまもりあいアプリを活用したスタンブラリー」を紹介し、スタンブラリーを取り入れた福祉教育も実施することとなった。地区内にある寺社を巡り、認知症をテーマにしたクイズに答えながら高齢者支援に関するキーワードを集めるスタンブラリーを実施した。地区福祉委員会や大学生、公民館、専門職など多くの人に関わることで、地域の中で子どもたちが楽しみながら学ぶ機会となった。

※みまもりあいアプリ…認知症高齢者等が徘徊し行方不明になったとき、アプリをダウンロードしている地域の協力者へ徘徊高齢者等の特徴を共有し、搜索の協力依頼をすることができるアプリ

③体験だけで終わらせず、できることや すいたのこれからを考える

学校「共生社会実現に向けての授業をしたい」

→【講話、体験、地域フィールドワーク、すいこれ】

対象：中学1年生 約130名

内容：「聴覚障がい者の講話」：聴覚障がい者当事者会、手話通訳ボランティア

「身体障がい者の講話」：障がい者施設利用者・職員

「アイマスク体験」「高齢者疑似体験」：地区福祉委員会、ボランティアグループ

「地域フィールドワーク（福祉施設や事業所へのインタビュー）」

：高齢者施設、障がい者施設、相談支援センター、地区福祉委員会

「すいこれ」：社協 CSW

【相談から実施までの経緯】

「総合発表会で手話コーラスを実施する予定なのでその前に聴覚障がいについての理解を深めたい。」との相談から、聴覚障がい者の講話を実施。授業実施後、「他の障がいや高齢者への理解も深めたい。」と再依頼があり、体験や講話の福祉教育を行った。さらに、地域の福祉施設や事業所の協力を得て、直接インタビューすることができた。今までの内容を踏まえ「すいこれ」を実施することで、自分たちにできることやまち全体を考える深い学びとなった。

福祉教育は体験や講話
だけではありません！

「すいこれ(すいたのこれからを考えよう!)~in 小中学校」

体験や当事者の講話などの福祉教育を通じて得た気づきや考えをもとに、「吹田（自分が暮らす地域）がこんなまちになったらいいな」「みんなが住みやすいまちって、どんなまちかな？」など、自分たちにできることや社会やまわりの大人に期待することなどについて、**仲間と対話**しながら具体的に考えていきます。そして、**自分の生活と結び付け、具体的な行動**につなげていくことをめざす授業です。

主体的な学び、対話的な学び、深い学びといったアクティブラーニングにもつながります。

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



他にも、受援力を高める（助けられ上手になる）授業やボランティアについての授業も検討中です。子どもたちに学んでほしい内容がありましたら、まずは福祉教育担当までご相談ください。一緒に取り組んでいきましょう。

福祉教育実施までの流れ

①相談

学校の希望をもとに福祉教育の内容について学校と一緒に考えます。

(例) 障がい者理解を深めたい

→ ・車いす体験 ・点字体験 ・障がい当事者の講話 など

身近な地域について考えたい

→ すいこれ (グループワーク) など

②申し込み

申込書に必要事項をご記入の上、FAX 又はメールでお申し込みください。

協力者の調整や事前打ち合わせがありますので

実施希望日の 2 か月前までにお願いします。

※この手引き及び申込書は吹田市社協のHP よりダウンロードできます。

③打ち合わせ

実施日の概ね 1~2 か月前に学校で打ち合わせを行います。

(目当ての確認、授業の進め方、使用する場所、準備物、ボランティアの人数確認など)

④実施

打ち合わせで確認した内容で授業を実施します。



⑤振り返り

福祉教育の授業後、ぜひ教室で先生と振り返りを行ってください。

(事後指導についての相談もお受けしています。)

可能であれば、感想や振り返りのワークシートのコピーを社協へご提供ください。
今後の活動の参考にさせていただきます。

吹田市社会福祉協議会 福祉教育申込書

学校名・担当者	
学年・クラス数・人数	
連絡先 (電話/FAX/メール)	電話 FAX
学習のねらい 伝えたいこと	
希望内容 希望する内容すべてに ✓を記入	<p>【地域学習】 <input type="checkbox"/>「すいこれ(すいたのこれからを考えよう!)～in 小中学校～」</p> <p>【体験学習】 <input type="checkbox"/>車いす体験 <input type="checkbox"/>高齢者疑似体験 <input type="checkbox"/>アイマスク体験 <input type="checkbox"/>点字体験 <input type="checkbox"/>手話コミュニケーション体験</p> <p>【当事者によるお話】 <input type="checkbox"/>視覚障がい者のお話 <input type="checkbox"/>身体障がい者のお話 <input type="checkbox"/>聴覚障がい者のお話</p> <p>【その他(こんな学習をしたい)】 <input type="checkbox"/>その他()</p>
候補日	年 月 日 () 時限目(~)
	年 月 日 () 時限目(~)
	※1 時間目は不可 年 月 日 () 時限目(~)

【問い合わせ】

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会
 TEL:06-6339-1254 FAX:06-6170-5800
 メール:suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp



※事務局記入欄

受付日 月 日
 受付 No.



編集・発行

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会

〒564-0072 吹田市出口町19-2

TEL：06-6339-1254

FAX：06-6170-5800

メール：suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp



吹田市社協 HP



インスタグラム

令和7年（2025年）4月発行